

備前市立備前中学校

・生徒数 407名 ・学級数 14学級 ・教職員数 37名（平成26年10月26日現在）

○取組実践のキーワード

わかる授業 一人ひとりを大切にした授業 習熟度別指導 ICTの活用 アセスメントシート 学習指導のスタンダード 小・中連携 メディアコントロール 授業規律

○標題（研究主題）

確かな学力の定着を目指す授業づくり

○取組を始めた経緯

以前、本校では学力が振るわず、主体性に乏しく、落ち着いて授業に取り組みにくい生徒が多く、その影響が学級全体にも及び、落ち着かない状況が続いていた。そこで、わかる授業を目指して、一人ひとりを大切にした授業の工夫をしたり、基礎・基本の定着を目指して少人数・習熟度別指導を行ったり、家庭学習の習慣化の取組を行ったりしてきた。

○取組の実施体制

研究主任を中心に職員研修を重ね、授業規律の立案と共通理解、わかる授業・一人ひとりを大切にした授業の工夫について、研究授業と反省会を1年間に4～5回行ってきた。また、今年度は総合教育センターから講師を招いて、アセスメントシート活用の職員研修を行い、更なる授業力の向上を目指している。

○学力向上に向けた具体的な取組

【習熟度別指導】

近年、第1学年の国語・数学・英語を中心に、1学級を2グループに分けて、習熟度別少人数授業を行っている。

【学習指導のスタンダード】

平成24年度から、授業の導入段階で、生徒に授業の目標を確実に把握させ、終末でまとめと振り返りを行い、その時間に身に付いたことを理解する取組を本格的に始めた。今年度は「岡山型学習指導のスタンダード」を活用して、この取組を一層進めている。

【ICTの活用】

平成25年度、全学級に50インチプラズマテレビ、教材提示カメラ、ノートパソコン及びデジタル教科書が導入された。これらを活用してわかりやすい授業を各教科で行っている。

【アセスメントシート】

今年度、アセスメントシートを全学級で行い、夏季休業中の職員研修で分析の仕方を研修した。2学期からは、その結果から、各学級の生徒の学習に関する傾向や問題点、つまづきやすい点などを参考に、各教科担任が授業の進め方を工夫している。

【小・中連携】【メディアコントロール】【授業規律】

平成25年度、本校の学区の小中学校による「備前中学校区小・中連携協議会」を発足させた。連携した取組として、県学力・学習状況調査結果を活用して学区内児童・生徒の学力の課題を検証したり、テレビやインターネットの利用時間を抑制して学習時間の充実を図る取組を計画したりと、今年度から本格的に実施している。また、今年度から学区内の5小学校と本校のルールを共通にしたものを策定し、2学期から実施するなど、学習規律についても小・中で連携を図った。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

今年度、全国学力・学習状況調査の平均正答率を全国と比較した場合、「国語B」では、1.5ポイント下回ったものの、「国語A」で0.7ポイント、「数学A」で4.6ポイント、「数学B」で3.7ポイント上回った。同一集団を平成24年度の県の調査と平成26年度の全国調査とで経年比較しても、県平均を下回っていたり、僅差で上回っていたりしたものが、今年度、県平均を大きく上回っており、国語で5.9ポイント、数学で6.5ポイント、上昇した。また、無解答率が全国平均に比べて低く、困難な問いに対しても意欲的に取り組もうとする姿勢が見られる。

2 課題

他者の発言を聞き、その意図を把握する能力や、自分の考えを的確に表現し、他者に伝える能力(コミュニケーション能力)が不十分な生徒が多い。また、文章から必要な情報を目的に応じて読み取り、活用することが苦手な生徒が多い。今後は、これらの課題が解消する指導法の研究に取り組む。

○取組の継続・発展の要因

学力の向上を本校の喫緊の課題として共通認識し、一時的ではなく継続的な取組を重視してきたこと、校内研修により教員の意識・意欲を維持したことなどが、一連の取組を継続・発展した要因だと考える。また、学年懇談や個人懇談、学年通信・学級通信等で保護者に積極的な啓発を行い、保護者と連携して指導に当たってきたことも要因の一つである。

○管理職・中核教員等のアクション

時間割や行事の設定などを工夫して、研究主任・研修主任を中心とした校内研修を複数回実施した。その内容として、授業研究を行ったり、先進校視察や校外での研修に参加した教員の報告会を実施したりするなどして、研修が充実する環境づくりを行った。